

モニターから・編集室から

広大フォーラム三号と四号に対して寄せられたモニターからの意見を紹介します。なお、三号に対する意見は前号では紹介できなかったもののみです。三号については二十一名(回答率四四・七%)、四号については十名(回答率二一・三%)の回収率となっている。

三号のモニター意見から

☆三号に関する印象・感想

学生 「入学して間もない一年生は比較的速いところにすんでいることが多い、高年次になるほど、住み替えて、車でなくても通える近くにすんでいるのに、一年生の車の乗り入れを禁止するのはおかしい。距離制限をするのが筋だと思う」という貴重な意見や、「サークル紹介など学生の手による文面がほとんど見られない」という指摘「教養的教育の積極的な試みの掲載と同時に、東広島キャンパスの駐車場問題や廃棄物の減量化や処理問題への取り組みなどバランスのとれた内容である」という印象が寄せられた。

教職員 「全体的にはタイムリーな内容だったと思う。八月六日の記事など移転によって忘れられてしまいうようなことなので、今後とも継続していただきたい」「駐車場問題と廃棄物処理の問題は学内生活の上で参考となる」とい

う肯定的な意見から、「全般的に堅い記事が多い。モニター以外には読まないと思う。息抜きが欲しい」「特集はタイムリー。しかし紹介されている内容からは教養的教育は総花的。もっと学問体系に沿ったものにすべき」「大学の刊行物なのだから『温室で育てられた若者』や『現代っ子のいわゆる軽薄短小』という皮相的な若者評価の表現をすべきでない」という手厳しい指摘もあった。留学生の眼「あなたの姓はなんですか」については多くの方から意見をいただきました。「金成燦氏の姓についての投稿は考えさせられましたが、金氏自身述べているとおり、金氏もまた日本人の文化や国民感情をもう少し理解してもらいたい(学生)」「金さんには何らかの形で天皇に姓のないことを説明しなければいけませんね(学外)」。一人の読者は天皇に姓のないことを次のように説明してくれています。「二十八期三号に『あなたの姓はなんですか』との表題で韓国からの留学生の発言が載っており、その中で『日本の天皇にも姓はあるのか』の質問に対して日本人の多くはまともに答えられないという指摘がありました。戦後の教育を受けた人ではさもありなんと思えます。その理由についての確かな答えを提供してくれる人は少なくないと思います。とりあえず戦前の教育を受けた私の立場から、一つの見解を参

考までに述べさせていただきます。まず答えからいえば、日本の天皇には姓はありません。その理由については、そもそも神話の時代から一つの皇統が連綿として続いており、他姓に取って代わられることは考えられていなかった。万が一、王朝をたてる可能性をもつたものが複数ならば、当然姓は付いて廻ったのでしょうか、日本の皇室の場合、ワン・オブ・ゼムではなくてワンであり同時にオールであるという考え方をとっています。要するに天皇の姓はあつてはならなかったのです。史実によれば、天皇の血筋が純粋につながっているかについては疑念があるとしても、『皇統は一貫してつながるべきである』という思想に基づいていると思われまふ。日本の占領下における韓国人の悔しい思いに対しては、弁明できることではないことは分かっていますが、金さんの疑問「天皇に姓がない」ことの説明にはなっていると思えます。天皇の問題は日本人の中にもいろんな考え方の人がいて、一概に言えないのが現状で、これ以上踏み込むことは、大学の広報委員会の職務を越えていると考えます(広報委員長)。

☆広報委員会への要望

学生からは「著名人との対談を企画しては」「夜間の出入構がなぜ一カ所のみになるのか、その効果はあるのか

という問題を取り上げて欲しい」という要望の他に、「大学改革が東広島キャンパスでのみ展開されていく印象を受ける。教養的教育の東千田キャンパスでの試みや、双方向授業の平成八年度後期を含めた具体的計画について取り上げて欲しい」という二部学生の要望があった。教職員からも、「二部の学生がかわいそうに思えてくる。二部のよいところをクローズアップする記事が欲しい」「移転も完了したので、夜間主コースの問題や附属学校の問題を取り上げる」等が要望されている。そのほかに教職員から、「学内で横行している暴力事件への対応について取り上げる」「他学部の学生と教官による教養ゼミ等、教養的教育改革についてディスカッションして欲しい」「評議会だよりは『たより』になっていない。もっと内容のあるものに」という要望が出された。

四号のモニター意見から

☆四号に関する意見

現時点では学生モニターからの回答は一名しか得られていないが、「もっと学生に身近な記事を載せて欲しい」「野良犬の問題への対処はどうなっているのか」「痴漢騒ぎはどうなったのか」という意見が寄せられた。

教職員からは特集に関して「教務関係の仕事に関わっている一人として、非常に興味深く読ませてもらった。関

係者にご苦勞様といたい」「大変よい。学生向きではあるが私たち教職員にも参考になる。この精神を貫いて大学改革が実現されることを強く望んでいる」「大変平易な文章で説明されており、分かりやすくよい」「今までよく分からなかった教養的教育について、非常に分かりやすく説明されている」とおおむね好評であったが、「改革は大変な作業で、担当された方は大変な苦勞をされたと思います。しかし記事からは、総論的なものは分かりませんが、具体的なものが見えてこない」「概論的でインパクトが弱い。学生の関心と教職員の意図は一致しているのだろうか。プラス面だけでなく、予想される問題点、あるいは大学での教育の限界についても示してよいのではないか」という指摘もあった。

学外からはもっと手厳しい指摘をいただいた。「今焦眉の問題として重視しようとする意図は理解できるが、具体的に実質的な姿が見えない。これからの問題でしようか」「周知を図る狙いはよかつたと思う。書き方が詳細すぎて、木を見て森を見ずの感あり。要点を明確にすればよかつた」。

改善点として次のことが教職員と学外モニターから指摘された。「もう少し学生の意見を反映した内容が欲しい。学生のニーズと教職員のニーズがうまく合致していないような気がする」「学

長インタビューのブルーの質問文は見えにくい。二千字の世界を五百字ぐらゐにして読みにくい文章が多すぎる。一読して理解できる文章を書くキャンペーンでもしたら」「法学部・経済学部における夜間部教育への取り組みについてのカットは、他のページのカットや全体の調子と合わないので変えた方がよい」「各号の主たる記事にあつたような表紙であればすばらしい」。

四号では、今一番興味や関心のあることをモニターに尋ねたところ、学生からは野良犬と痴漢という身近な問題が出された(一人しか回答していないが)。教職員からは「大学に対する学生の本音の声が届きたい」「なぜ広大生の自殺が多いのか」「広大が都会から田舎に移転して学生の質が落ちたと耳にすることがあります。移転完了を機に、広大の世界に誇るような研究を紹介してほしい」、学外からは「近未来での大学の変容と高齢化社会の今後の変化」「各分野の先生方の研究内容」という回答を得た。

最後にマスコミ関係のモニターからの意見を紹介します。「いい特集だった。必携の特集だったと思う。リードに指摘された『実際に影響を受ける学生にどれだけ理解されているか』の疑問に答えた。朝倉尚カリキュラム編成専門委員会専門委員長(なぜ、編成専門委

員長ではないのかな)の、かんで含めるような分かりやすい解説は学生にはいいボールだった。『学部教育の変遷』の図解も親切。今度は学生がバツトを振る番である。ぜひ、それぞれが熟読して考えて欲しい。『今激動の香港を考える』『腸上皮化生』も素人に楽しく読めた。優しく書こうという努力が見えるし、胃痛発生の模式図もよい。また、プロフィールも洒落てきて、一言しゃべらせた細かな気使いが筆者を読者に身近なものとした。

もう一つ目についたのは高分子検討会の紹介。一種の『学会』だろうが、専門分野の人でないとい関心を持たないかもしれない高分子討論会を一般(読者)に知らせようとした工夫が十分くみ取れる。小見出しの『お騒がせしました』『協力ありがとうございました』『高分子ってなに?』もその現れと受け取った。『高分子ってなに?』以降の説明もよい。『協力ありがとうございました』はやりすぎか。

『広島大学支援財団設立に向けて』は待つていた記事である。ここでぜひ欲しいのが財団を支える学外の大口出資者(具体的に佐竹製作所の佐竹寛社長)の財団への思い、期待の弁であり、恩恵にあずかる学生、研究者の受け止め方だろう。次回にインタビュー記事を見たい。その他にも、レイアウ

トの仕方など貴重な助言をいただいた。

編集室から

モニターからの厳しくも温かいご意見ありがとうございました。広報委員会ではモニターによる他者評価を真摯に受け止め、フォーラムをみなさまに読んでいただくように努力していきますが、なにごん不慣れなものが多いので、毎日バタバタしているのが現状です。モニター意見にもありましたように、どうも最近学生の本音が見えないという印象を広報委員会も持っています。そこでこの欄では、学生の意見はすべて載せておりますが、教職員の意見の一部を(お褒めの言葉も)とあつたのですが)省略させていただいております。



Photo: Kanameda, Keiji